



たまご まも かわざかな ほんとう さかな
卵を守る川魚がいるって本当なの、どんな魚なの

なかま
ハゼの仲間のヨシノボリ

ハゼの仲間のヨシノボリは、体長7～12センチメートルで、「つくだに」などにされる魚です。このオスは、春になると、大きな石を選び、その下の砂や小石をしっぽではね飛ばしたり、口にくわえて運び出したりして、体が入るすき間を作ります。これが巣です。

メスを巣にさそうと、メスは石の裏側に卵を産みつけ、産み終わったらどこかへ行ってしまいます。あとは、オスが、いつも卵に新しい水がいくように、胸びれで水を送ったり、死んだ卵をとりのぞいたりしながら、入り口にじんどって、敵から卵を守ります。

卵は4～5日でかえり、子魚は、川の水に流されながら海へ出ます。2～3か月して、親と同じような体つきになると、生まれた川をさか上っていき、次の年の春、産卵します。

す たまご そだ さかな
あわの巣で卵を育てる魚もいる

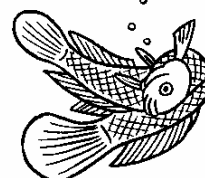
最近はなかなか見られなくなったチョウセンブナは、オスが、口から出したあわで、水面にうき巣を作ります。メスが産卵すると、卵は水面にうき上がっていきます。オスが、その卵を、あわの巣に運び、卵がかえって子魚が自分で泳げるようになるまで、卵を守ります。モツゴも、水底の石の表面をオスがきれいにし、メスがそこに産卵した後は、ふ化するまで、オスが卵を守ります。

(監修・安部 義孝)

あわの巣



卵



チョウセンブナの産卵

卵を守る
ヨシノボリのオス

